

西諸県地域の普及活動

令和6年4月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 農業経営改善計画の認定審査会が開催

25日に、小林市役所にて、認定農業者の農業経営改善計画認定審査会が開催され、新規2件（肉用牛繁殖1件、水稻1件）と更新4件（肉用牛繁殖1件、露地野菜1件、施設野菜1件、施設果樹1件）の審査があり、全て承認されました。

2) 農業経営指導士との意見交換を実施

4月下旬から指導士との意見交換を実施しました。任期は令和4年度から令和6年度までの3年間で、小林市から5名、えびの市から4名、高原町から2名の計11名で活動をしていただいています。農業経営指導士は、県の委嘱により普及センターが行う農業者の支援に対し、協力や助言等の活動を行います。意見交換では、これまでの農業経営の経験、今後の地域の農業や担い手確保等について、熱意のある意見を聞くことができ、指導士は地域の農業リーダーとして頼もしい存在であると改めて確認することができました。



【指導士との意見交換の様子】

7月には、西諸県地域農業経営指導士会の総会を開催予定です。

3) 4月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年4月期子牛郡品評会が開催されました。

4月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た47頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、尙等賞に23頭、式等賞に18頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市野尻町のN氏出品の「ひまわり」号（桃白鵬－忠国桜－美穂国）、2席は高原町のK氏出品の「みくもも」号（桃白鵬－耕富士－美国桜）、3席は小林市のI氏出品の「さわ139」号（二刀流－耕富士－安重守）が受賞されました。



【優等賞首席 ひまわり号】

受賞牛は体積が豊かで、伸び良く、前駆が素晴らしいとの講評でした。

4) 小林市総合畜産共進会・高原町総合畜産共進会が開催

4日、高原町畜産振興センターにおいて、第47回高原町総合畜産共進会が開催され、和牛と乳牛合わせて103頭の出品がありました。肉用種牛の部はU氏、乳用種牛の部は合同会社I牧場がグランドチャンピオンを獲得されました。また、(株)ミヤチク高崎工場において、開催された枝肉の部では22頭の出品があり、T氏が首席を受賞されました。



【共進会の様子】

5日には、小林地域家畜市場において、第19回小林市総合畜産共進会が開催され、和牛と乳牛合わせて73頭の出品があり、肉用種牛の部はT氏、乳用種牛の部はN氏がグランドチャンピオンを獲得されました。また、(株)ミヤチク高崎工場において、開催された枝肉の部では48頭の出品があり、(有)Y牧場が首席を受賞されました。

5) JAえびの市子牛品評会が開催

8日、JAえびの市畜産センターにおいて子牛品評会が行われ、優等首席はT氏出品のいましろ4号（耕富士－秀菊安－忠富士）、2席はT氏出品のかおり号（美津秋－勝光美－忠富士）が受賞されました。受賞牛は体積が豊かで、伸びと深さ共に優れていたとの講評でした。



【表彰の様子】

また、同日に家畜の供養と家内の繁栄を祈願する馬頭観音祭が開催され、厳粛に神事が執り行われました。

6) 畑かん関連の協議会総会が開催

19日に、小林市文化会館において「西諸地区農業水利総合開発事業促進協議会」及び「小林市畑地かんがい事業推進協議会」が、23日に高原町ほほえみ館において「高原町畑地かんがい事業推進部会」の総会が開催されました。

総会終了後、普及センターから畑かん営農に関する情報提供を行いました。

今後も関係機関と連携して、畑かんを利用した営農の推進を進めてまいります。



【畑かん営農に関する情報提供】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 小林市、えびの市での就農希望者の相談会を実施

15日と23日に、小林市で施設きゅうりでの就農希望者1名、露地野菜での就農希望者1名の就農計画作成に向けた検討を行いました。

施設きゅうりでの就農希望者に対しては、就農開始に向けたスケジュールの確認や計画を作成する上で必要な諸条件の聞き取りを行いました。また、今後は、5月の認定新規就農者の認定に向けて、関係機関と連携して支援を進めていく予定です。

露地野菜での就農希望者に対しては、多岐に渡る生産品目のそれぞれの作付け面積・必要な作業時間の確認を行うとともに、経営内容を明確化するために作付け体系図での整理を行うように助言しました。今後、就農に必要な施設・機械等の計画を明確にし、認定に向けた就農計画作成を関係機関と連携して支援していく予定です。

24日に、えびの市でタケノコや水稻等での就農希望者1名の相談に対応しました。今回で2回目の就農相談で、作成中の収支計画の精査を行いました。今後、計画のブラッシュアップを進めるとともに、就農開始に必要な機械について明確にした上で、認定に向けた就農計画作成を関係機関と連携して支援していく予定です。

※就農相談対応(面談)等 3名3回

(内訳:小林市:施設きゅうり1名、露地野菜1名 えびの市:タケノコ、水稻等1名)

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) えびの市で畦畔除草の省力化を目的とした畦畔除草剤展示ほの設置

25日に、えびの市の水稻大規模経営体のほ場で、1回目の畦畔除草剤散布を実施しました。

この畦畔除草剤試験は夏場の草刈り回数を削減するための省力化技術となっており、1回目はザクサ液剤を散布し、除草を行いました。散布の4日後に確認したところ、薬剤を散布した畦畔雑草は黄化し、枯れ始めていました。

今後も経過を見ながら、実施経営体の意見を聞き、技術の普及に努めます。



【除草剤散布】

2) えびの市で種子処理用殺虫剤の飼料用米種子への塗布

25日に、えびの市にて、種子処理用殺虫剤「ルミスパン」の種子塗布を実施しました。

「ルミスパン」は農閑期に種子に塗布することで、ウンカ類に対し、移植後最大90日間効果が持続します。いもち病に強い飼料用米品種「ひなたみのり」に「ルミスパン」を使用することで、箱施薬剤散布より省力化・コスト低減が見込めます。



【種子処理後の種籾】

今後は種子処理剤と箱施薬剤散布で病害虫効果比較を行っていきますが、まずは育苗時点で問題がないか種籾や苗調査を行う予定です。

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) サトイモ疫病対策の啓発

24日に野尻町里芋部会総会が、25日に小林市里芋生産部会定期総会が行われ、普及センターからは、令和6年度版のサトイモ疫病対策マニュアルの内容とポイントについて説明を行いました。

近年は、さといもの需要が増えてきているということで、サトイモ疫病の発生で減った出荷量を、今後回復させていくための方策が求められています。普及センターは、産地維持のために必要な情報を届けられるように活動していきます。

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) えびの市のいちご団地講習会（第1回）

26日、えびの市のいちご団地において、今年度から研修を始めている研修生2名を対象とした講習会が開催され、研修生2名と若手いちご生産者、JA指導員が参加しました。

講習会は、普及センターから「育苗期における病害虫管理」について説明を行い、その後いちご団地のほ場をみながら、簡易的な病害虫診断や樹勢判断の方法について説明を行いました。

研修生や生産者のスキルアップに繋がるよう、引き続き有益な情報を提供するとともに、こまめな巡回指導を行い、いちごの収量を安定して確保できるよう支援していきます。



【ほ場での病害虫診断】

2) きゅうり生育調査

令和6年1月から4月にかけての毎週木曜日、JAみやざきこばやし地区本部の指導員とともに、こばやしきゅうり生産部会のほ場3戸の生育調査を行いました。

生育調査では、茎径や開花位置などを調査することで生育状況を把握するとともに、環境測定データと照らし合わせることで栽培管理の改善指導を行いました。

4月で今シーズンの調査は終了しましたが、これまでの調査結果と環境測定データを分析し、次作での栽培管理に生かせるよう、引き続きJAと連携しデータの活用方法の検討などを行っていきます。



【生産者への栽培管理指導】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会 出荷目揃え会

8日、JAこばやしマンゴー選果場で出荷目揃え会が開催され、生産者40名程度が参加しました。JA担当者から情勢報告や出荷要領について説明があり、普及センターからは、炭酸ガス施用方法や園地台帳ヒアリング結果について説明しました。今後も病虫害や生理障害の低減に向けて巡回指導や講習会を行います。



【マンゴー目揃え会】

2) 小林市果樹振興協議会 役員会

9日、普及センターにて役員会が開催され、役員4名、関係機関3名が参加しました。役員会では、管理講習会の日時と場所について話し合い、5月の開催が決まりました。

これから、梨・ぶどうの重要な管理時期となるため、講習会や個別巡回にて指導を行います。

3) 専技等との管内巡回支援

12日に、小林市管内の果樹生産ほ場の生育確認などを果樹専技や総合農業試験場の果樹部と実施しました。

今回は、なし・ぶどうの生育状況確認やマンゴーの炭酸ガス導入状況等を確認し、今後の管理について専技から助言をいただきました。

今後も関係機関や農業者へので情報共有を行い、産地の課題解決に向けた活動をしていきます。



【生産者の話を聞く様子】

4) えびの市でくりの農地環境推定システム設置打合せ

25日、えびの市のくり生産者自宅で農地環境推定システム設置について説明を行いました。このシステムの設置・運用で、近隣のアメダスデータを利用し、任意の地点(50m四方程度)の気象を推定することができ、くりでは収穫始期の事前予測、お茶や日向夏では、凍霜害警報発令等での活用が期待されます。既に県内では果樹を中心に23地点で運用されています。今後は6月に気温自動収集装置の設置を行い、6か月間測定を行った後に装置を撤去し、スマホやPCでのwebサービスとして利用可能となる予定です。



【農地環境推定システム設置予定園地】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) えびの市内のキイチゴ「ベビーハンズ」及びランキュラスの巡回支援

10日及び19日に、JAみやざきえびの市地区本部の営農指導員とともに、えびの市管内のキイチゴ及びランキュラス生産者の巡回支援を実施しました。

2月末の霜害により、例年より早く伸長していた芽が被害を受けましたが、その後順調に伸長していることを確認しました。しかし、曇天が続き、夜温が高く推移していることから、葉が軟弱でべと病などの発生が懸念されるため、JA職員とともに今後の注意すべき管理について生産者に共有を行いました。

また、新規定植を考えている生産者に対し、キイチゴ栽培の説明を行いました。

年々生産者が増加している品目ですが、気象の影響により栽培管理が難しい状況となっています。JA職員と連携しながら、安定した高品質なキイチゴを栽培できるように引き続き支援していきます。



【えびの市管内のキイチゴ生育状況】

2) 西諸県地区ランキュラス栽培講習会の開催

16日に、普及センターにおいて、生産者8名、関係機関7名の計15名が出席し、ランキュラス栽培講習会を開催しました。現在、ランキュラスは収穫が終了し、次作のための球根作りの重要な時期となるため、毎年実施しています。

今回は、普及センターから、県産品点検の結果や球根養成から保管までの管理で注意すべき作業、新品種について説明しました。

また、参加者15名を2班に分け、問題点や苦労している点、先進地視察する際に知りたいこと等について各班で意見交換しました。

普段、関係機関や生産者同士が座って意見交換することができなかったので、改めてお互いの考えや悩み、改善したいと考えていることが共有できました。

今回の内容をいかし、関係機関で共有して生産者への支援を実施していきたいです。

3) JAこばやし花卉部会の定例巡回と定例会

17日に、生産者5名と関係機関3名でJAこばやし花卉部会員3名のほ場を巡回し、意見交換が行われました。巡回後の定例会では、JAみやざきこばやし地区本部から販売の情勢について、普及センターからはバイオスティミュラント資材について情報共有しました。

秋ギクの最終出荷作型では、下葉枯れの発生が顕著で継続的な検討と支援を実施していきます。



【JAこばやし花卉部会定例会】

2. 総合プロジェクト以外の普及活動

1) 秋冬作飼料作物展示ほ収量調査の実施

16日に、小林市、25日にえびの市において2カ所の秋冬作飼料作物（イタリアンライグラス・エンバク・オオムギ）展示ほの収量調査を実施しました。雨が続き、倒伏が多いほ場や、刈り遅れのほ場が多くみられました。今回の収量調査に栄養成分分析の結果を加味し、来年度の秋冬作飼料種子申込書に掲載する品種選定の参考にしていきます。

これから再生草の生育観測や収量調査を行い、地域における優良品種導入の推進を図っていきます。



【イタリアンライグラス・オオムギの調査】

2) 第1回水稻栽培基礎講習会を開催

24日に、西諸県農業普及センターにて、第1回水稻栽培講習会を開催し、当管内の生産者69名が参加しました。

この講習会は、水稻栽培を始めたばかりの方、水稻栽培の基本技術を知りたい方、水稻技術を改めて知りたいという農業者に対し、水稻栽培の基礎を身につけてもらい、地域全体の米の品質向上を図るために行いました。

講習会の内容は、水稻栽培管理の前半（耕起、代かき、育苗、田植え、中干し）や米の品質の考え方について基本的な内容を説明しました。

講習会後のアンケートには、今回の内容で田植時の栽植密度や浅植えについて初めて知った、今後実践したい等のことが記載されていました。

第2回は、7月中旬に、栽培後半（穂肥、防除、水管理、収穫、乾燥調整）とアンケート結果に基づき、次回の講習会で学びたい内容（減農薬、有機肥料や高温対策）を盛り込んで説明する予定です。



【耕起・代かきを説明】

3) 西諸県地区営農振興協議会野菜部会総会及び技術員会を開催

23日に、西諸県農業改良普及センターにて野菜部会の総会及び技術員会を開催し、関係機関から24名の出席がありました。総会では令和5年度事業実績及び収支決算、令和6年度の事業計画及び収支予算について可決されました。

技術員会では、今後の天候や野菜の生育概況、畑かんの取組、国庫・県単事業や市町単事業について各担当者から説明してもらうことで、情報共有を行いました。

引き続き関係機関と情報共有しながら、農家指導に反映していきます。



【野菜部会の総会】

4) 夏秋ピーマン出荷講習会

25日に、小林市三ヶ野山出張所にてJAみやざきこぼやし地区本部ピーマン生産部会の出荷講習会が開催されました。

まずJA指導員から、出荷規格や天敵を活用した栽培管理等についての説明がありました。

普及センターからは、コナジラミ類およびアザミウマ類に対する散布農薬一覧を提供し、害虫の飛び込み時期での防除の重要性について説明しました。

害虫被害を抑えられるよう、関係機関と連携しながら農家指導を行っていきます。



【野菜部会総会】

5) 西諸県地区果樹技術員会（営農振興協議会果樹部会）総会及び定例会を開催

24日に、普及センターにて総会及び定例会が開催され、関係機関15名が参加しました。総会では令和5年度事業実績及び収支決算、令和6年度の事業計画及び収支予算について可決されました。令和5年度はコロナの影響も少なく、県外視察や食味調査など従来通りの活動ができました。今年度も現地見学などを活発に行いながら、関係機関の情報共有を行い、産地の課題解決に向けた活動をしていきます。

6) 西諸県地区花き技術員会総会及び第1回定例会を開催

24日に、普及センターで西諸県地区花き技術員会総会を開催し、令和5年度事業実績及び収支決算、令和6年度の事業計画及び収支予算が可決されました。

定例会では、管内の花き品目の生育概況や展示ほ、補助事業関係についての情報共有、気象や管内花きについての研修を行いました。昨年度は、県内外現地視察や管内展示ほ調査などを中心に活動ができました。今年度もより活動的に関係機関と情報共有を行い、産地の課題解決に向けた活動をしていきます。



【花き技術員会総会】

7) 専技等との管内巡回支援

26日に、小林市及びえびの市管内の花き生産ほ場の生育確認などを花き専技や花き部等と実施しました。

今回は、小林市の鉢苗物生産者の状況確認やえびの市のリンドウ及びキイチゴの生育状況確認を実施し、今後の管理等について専技から助言をいただきました。

鉢苗物の経営は物価高の影響で需要量の減と単価の低迷で厳しい状況にあります。生産者が試みる方策について関係機関で協力して引き続き支援していきます。



【ナチュラルブルーの生育状況確認】

8) 一番茶前茶園巡回の実施

8日に、西諸茶業青年会の一番茶前茶園巡回が行われ、生産者7名と関係機関4名の計11名が参加しました。

今回の巡回では、各茶園における生育状況、病虫害発生状況及び摘採予測日などを確認し、今後の管理等について意見交換が行われました。

巡回時の生育は、平年よりやや早く推移しており、霜害等による大きな被害もありませんでした。



【西諸茶業青年会 茶園巡回】